



資料1 - 1

# 通訳案内士試験事業の概要

平成20年5月19日

独立行政法人 国際観光振興機構(JNTO)

# 1. 概要

通訳案内士の制度を定め、その業務の適正な実施を確保することにより、外国人観光旅客に対する接遇の向上を図り、もって国際観光の振興に寄与することを目的とする。

報酬を得て、**通訳案内(外国人に付き添い、外国語を用いて、旅行に関する案内をすること。)**を業として行おうとする者は、**国土交通大臣が行う通訳案内士試験**に合格し、都道府県知事の登録を受けなければならない。

## 国土交通大臣が通訳案内士試験を実施

(昭和60年度より独立行政法人国際観光振興機構が試験事務を代行)

### 試験科目

#### < 筆記試験 >

##### 外国語

(英語(s24~)、フランス語(s26~)、スペイン語(s30~)、ドイツ語(s34~)、中国語(s34~)、イタリア語(s35~)、ポルトガル語(s36~)、ロシア語(s37~)、韓国語(s60~)、タイ語(H18~))

##### 日本地理

##### 日本歴史

産業、経済、政治及び文化に関する一般常識

#### < 口述試験 >

筆記試験に合格した者につき、通訳案内の実務について行う。

### 受験地

#### < 筆記試験 >

札幌、仙台、東京、名古屋、京都、広島、福岡、那覇、ソウル、北京、香港、台北(12都市)

\* ソウルでは韓国語のみ、北京、香港、台北では中国語のみ実施

#### < 口述試験 >

東京、京都、福岡(3都市)

\* 英語、中国語以外の試験は東京でのみ実施

### 試験日程

筆記試験 - 8月下旬～9月上旬(日曜日1日間1回実施)

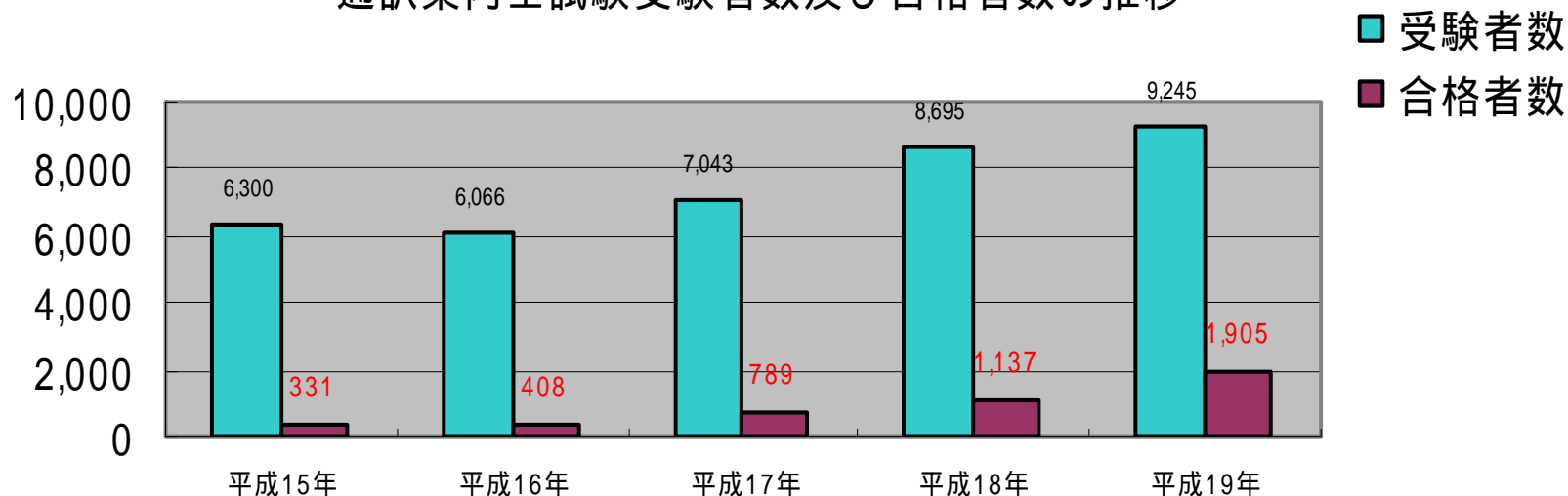
口述試験 - 11月下旬～12月上旬(日曜日1日間2回実施)

### 受験手数料

8,700円

## 2. 実績

通訳案内士試験受験者数及び合格者数の推移



参考(通訳案内士  
登録者総数)

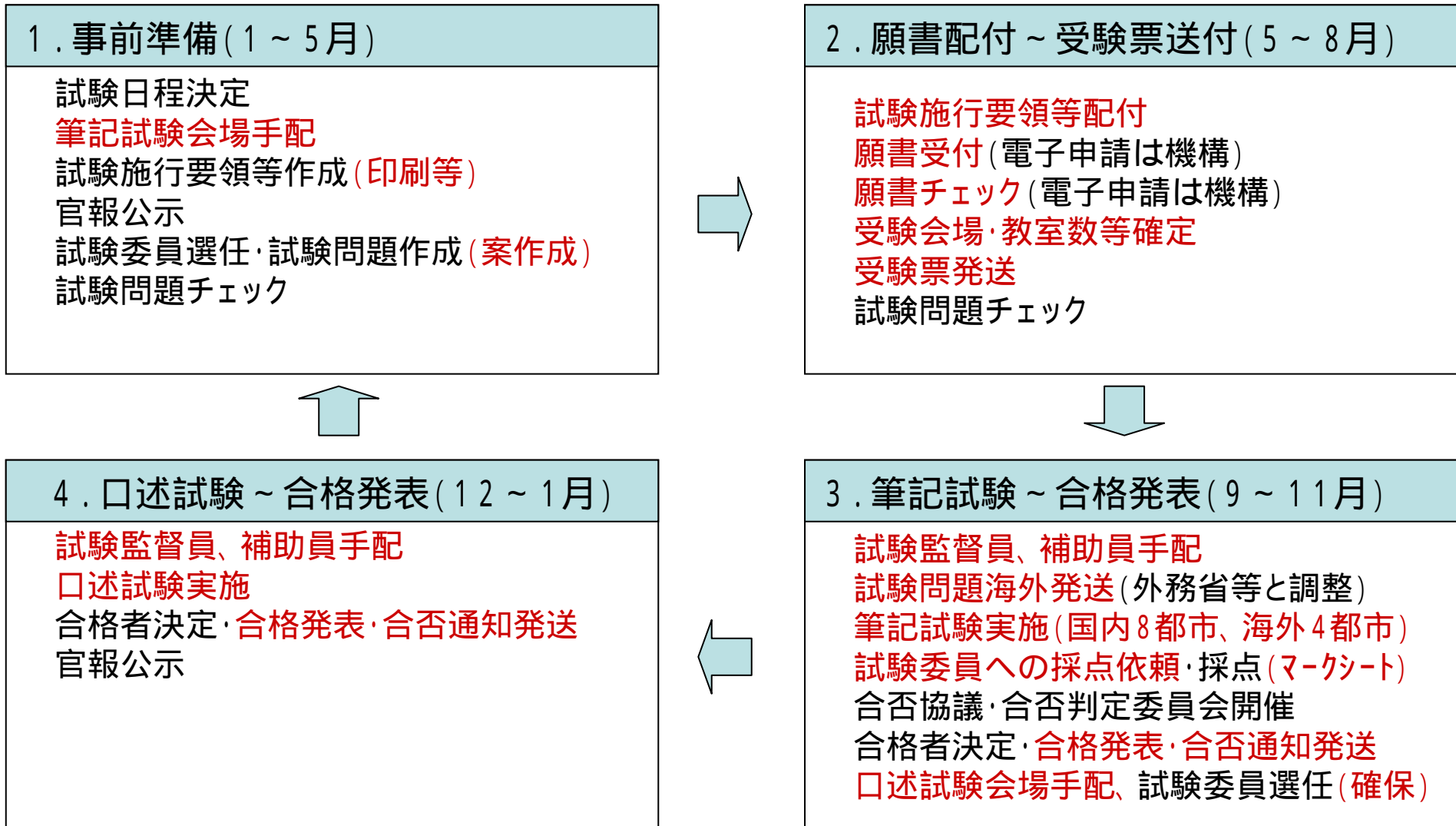
通訳案内士  
登録者数  
: 10,958人  
(累積延人数、  
平成19年4月  
1日現在)

参考(通訳案内士登録者言語別内訳)

言語	登録者の全言語に占める人数・割合
英語	7,490人 (68.4%)
中国語	1,164人 (10.6%)
韓国語	512人 (4.7%)
スペイン語	506人 (4.6%)
フランス語	491人 (4.5%)

言語	登録者の全言語に占める人数・割合
ドイツ語	427人 (3.9%)
ロシア語	193人 (1.8%)
イタリア語	104人 (0.9%)
ポルトガル語	69人 (0.6%)
タイ語	2人 (0.0%)

### 3. 試験事務の流れ



## 4. 確保すべきサービスの質(1)

### ・試験業務の確実な実施

- 本業務の工程ごとの作業方針、スケジュールに沿った業務の確実な実施。

### ・筆記及び口述試験会場の手配

- 筆記試験会場の余裕を持った座席配置、試験室の広さに対応した適切な音響設備の完備。
- 口述試験会場の試験委員と受験者との間に十分な間隔を設けられる広さの確保。

### ・願書等配付・受付業務

- ミスのない願書等の印刷、配付、受付・チェック。
- ミスのない申請者願書データの作成。
- ミスのない受験票の作成・発送。

## 4. 確保すべきサービスの質(2)

### ・筆記試験業務

- ミスのない筆記試験問題の印刷・校正、マークシート答案の作成・印刷。
- 筆記試験運営マニュアルに基づいた受験者の安全確保を第一に考えた試験運営。
- 試験会場の周辺住民の生活環境への配慮及び試験会場周辺での交通トラブル防止。
- ミスのない試験委員への外国語試験答案用紙の引渡し及び回収。
- ミスのないマークシート答案用紙の採点。
- ミスのない筆記試験合否判定用データの作成。
- ミスのない筆記試験合格者データの作成。
- ミスのない筆記試験合格者名簿及び合否通知の作成・発送。

### ・口述試験業務

- 口述試験運営マニュアルに基づいた受験者の安全確保を第一に考えた試験運営。

## 4. 確保すべきサービスの質(3)

- 試験会場の周辺住民の生活環境への配慮及び試験会場周辺での交通トラブル防止。
- ミスのない口述試験合格者データの作成。
- ミスのない口述試験合格者名簿、合否通知、合格証書及び筆記試験合格証書の作成・発送。

### ・問い合わせ及び苦情対応

- 受験申請者からの問い合わせや苦情等への適切な対応。